安全データシート(SDS)

作成 2013年 9月10日

1. 製品及び会社情報

製品識別

製品名 DECORDYN 350 Spray

物質又は混合物の推奨用途及び推奨できない用途

推奨使用用途

エアロゾル

腐食防止剤

製造/販売業者

会社名	FUCHS LUBRITECH GMBH
住 所	Werner-Heisenberg-Straße 1, D-67661 Kaiserslautern / Germany
電話番号	+49 (0) 6301 3206 - 0
ファックス番号	+49 (0) 6301 3206 - 940
電子メール	reach@fuchs-lubritech.de
インターネット	www.fuchs-lubritech.com

お問い合わせ先

製品安全部門

電話番号	+49 (0) 6301 3206 - 0
ファックス番号	+49 (0) 6301 3206 - 940
電子メール	reach@fuchs-lubritech.de

緊急連絡先 +49 (0)171 / 4632154

利用可能な情報はありません

2. 危険有害性の要約

物質又は混合物の分類

67/548/EEC 又は 1999/45/EC による分類

F+; R12

R66

R67

R-phrases

12	引火性がきわめて高い。
66	暴露の繰返しにより皮膚の乾燥あるいはひび割れを引き起こすことがある。
67	蒸気は嗜眠状態およびめまいをおこすことがある。

ラベル要素

67/548/EEC 又は 1999/45/EC によるラベルリング

ラベルの備考

本製品は EC directives/German regulations on dangerous substances に従って分類及びラベル付けしています。
分類は preparation directive (1999/45/EC)に従って実施しました。

F+ 引火性がきわめて高い。

R-phrases

12	引火性がきわめて高い。
66	暴露の繰返しにより皮膚の乾燥あるいはひび割れを引き起こすことがある。
67	蒸気は嗜眠状態およびめまいをおこすことがある。

ラベリングのための有害成分
ブタン, プロパン

特定混合物のラベル追加要素のための特別な規則
加圧容器: 温度が50℃以上にならないようにして下さい。 使用後も穴あけや加熱をしないで下さい。
子供の手の届かないところに保管して下さい。
裸火や白熱物質に直接スプレーを吹きかけないで下さい。
着火源から遠ざけて下さい。 ー禁煙
風通しの良い場所、又は換気の良い場所で可能な限り作業して下さい。

その他の危険
人と健康のための危険に関する特別な情報
本製品は蒸気と空気の混合物が爆発/引火を引き起こす可能性があります。

3. 組成、成分情報

混合物危険な成分

CAS No.	EC No.	物質名	wt%	67/548/EEC による分類
74-98-6	200-827-9	プロパン	10-20	F+R12
106-97-8	203-448-7	ブタン	50-100	F+R12
64742-48-9	265-150-3	炭化水素の混合物、脱芳香族化溶剤、脱芳香族化 VbF A II	10	Xn;R10-65-66-67

概要
噴霧剤: プロパン/ブタン
有効成分: 揮発性炭化水素と添加剤の調剤

追加情報
炭化水素に記載されている記号 Xn/R65 は加圧容器の調剤では記載する必要はありません。

4. 応急措置

応急措置方法
一般情報
衣類に付着した場合は速やかに着替えて下さい。
衣類を乾燥させる場合は製品を完全に除去して下さい。

吸入した場合
新鮮な空気を確保して下さい。
症状が現れた場合は治療を受けて下さい。

皮膚に付着した場合
皮膚に付着した場合、石鹸と水で洗い流して下さい。
有機溶剤を使用しないで下さい。
皮膚の刺激が続く場合は医師に相談して下さい。

眼に入った場合
眼に入った場合は、多量の水で注意深く洗浄して下さい。
症状が続く場合は、医師の手当てを受けて下さい。

飲み込んだ場合
無理に吐かせないで下さい。
気分が悪い場合は安全データシート又は製品ラベルを持って医師の治療を受けて下さい。

最も重要な急性、遅延性の症状
医師への情報 / 考えられる症状
下記の症状が生じる可能性があります。
咳, 頭痛
医師への情報 / 考えられる危険
嘔吐後に誤嚥の危険性があります。
即時に処置が必要な徴候及び特別な治療
治療(医師へのアドバイス)
症状に適した治療をして下さい。

5. 火災時の措置

消火剤
適切な消火剤
泡、粉末、二酸化炭素
使ってはならない消火剤
棒状噴射の水

物質または混合物から生じる特別な危険性
有機物の火災ガスは呼吸毒として分類する必要があります。

消防士のための情報
消防士に対する保護器具等
自給式空気呼吸器を使用して下さい。

追加情報
火災の危険にさらされた容器は霧状の水で冷却して下さい。
長期間加熱された場合は爆発の危険があります。

6. 漏出の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時の処置
換気を十分に確保して下さい。
着火源を遠ざけて下さい。
目や皮膚との接触を避けて下さい。

環境に対する注意事項
排水, 地下水, 河川等に放出しないで下さい。
広域への拡散を防止して下さい。(例:油障壁, コンテインメント)
土壌/地面に製品を放出しないで下さい。

封じ込めと清掃方法、清掃道具

作業場を十分に換気して下さい。
回収、又は廃棄物は適切な容器に入れて下さい。
吸着性のある物質(例:砂, おがくず, 汎用バインダー, 珪藻土)で残留物を取って下さい。

追加情報

廃棄のための情報は項目13を参照して下さい。

7. 取扱い及び保管上の注意

安全に取扱うための注意事項

十分な換気を確保するために、換気が十分な作業場であっても必要に応じて局所排気装置を使用して下さい。

火災や爆発に対する予防措置

着火源に近づけないで下さい。－禁煙
製品は可燃性です。
蒸気は空気と混合することによって爆発性の混合気体を形成する可能性があるります。
火の近くでは破裂によって火災の拡大や怪我の危険性があります。

混触禁止物質を含む、安全な保管のための条件

保管所と容器への規定

元の容器で蓋を閉めて保管して下さい。
階段や通路に保管しないで下さい。

混触禁止物質に関する情報

酸化剤, 自己可燃性物質と同じ場所に保管しないで下さい。

保管状態に関する追加情報

熱や直射日光から避けて保管して下さい。
容器は乾燥した状態を維持して下さい。
涼しい場所に保管して下さい。
製品に熱が加わると圧力が増加して爆発の危険性が増加します。

Storage group	2B
Fire class	B

特定の最終用途

利用可能な情報はありません。

8. 暴露防止及び保護措置

制御パラメーター

追加情報

この情報は有効性のある文献を基にしています。

暴露制御

呼吸器の保護

必ず使用する必要はありません。

手の保護

複数の物質からなる調合剤であるため、手袋に使用されている材料の耐性を予め決めることはできません。
そのため、製品を使用する前に手袋の耐性を必ず確認して下さい。
経時劣化による手袋の耐久性は力学的負荷に依存するため別途確認して下さい。
長期間及び繰り返し皮膚に接触する場合はPVC手袋を着用して下さい。

眼の保護
保護眼鏡

皮膚の保護
一般的な化学工業用の作業服

一般保護対策
眼や皮膚との接触を避けて下さい。

適切な衛生対策
製品に汚染及び付着した布はズボンのポケットに入れないで下さい。
作業場での飲食，喫煙，薬の服用は禁止して下さい
化学製品を取り扱う際の一般的な産業衛生規則を遵守して下さい。
製品が付着した衣類は直ちに脱いで下さい。
換気の良い場所で作業して下さい。
飲食物を遠ざけて下さい。
保護クリームを使用して下さい。

システム設計上の追加情報
製品を噴霧することによって発生するエアロゾルを吸入しないで下さい。

9. 物理的及び化学的性質

基礎的な物理化学性状

形状	色相	臭い
エアロゾル	無色透明	ガソリンに近い

重要な健康、安全及び環境に関する情報

	値	試験方法	備考
pH			適用外
沸点範囲	適用外		エアロゾル
引火点	< 0°C		有効成分 ＋ 噴霧剤
引火点	23°C		有効成分のみ
発火点			不明
爆発限界 下限	1.7vol%		
爆発限界 上限	11.1vol%		
蒸気圧 20°C	2700 – 3700hPa		エアロゾル缶の圧力
密度 20°C	0.625 – 0.635 g/cm^3		有効成分 ＋ 噴霧剤

酸化性
なし

爆発性
使用前、使用後であっても引火性混合物として危険性があります。
50°C 以上に加温された場合は爆発する危険性があります。

その他の情報
蒸気は空気より重い
可燃性液体

10. 安定性及び反応性

反応性
利用可能な情報はありません。

化学安定性

利用可能な情報はありません。

危険な反応の可能性
利用可能な情報はありません。

避けるべき条件
蒸気圧が高いため容器の温度が上昇した場合、爆発する可能性があります。
引火点以上に加熱された場合、又は霧状及びミスト状になっている場合は、空気中で可燃性混合物を形成する可能性があります。
混色危険物質
避けるべき物質
酸化剤との反応

危険な分解生成物
適切な保管及び、取り使いをしている場合は特にありません。

熱分解
仕様書通りに使用すれば分解しません。

11. 有害性情報

毒性影響に関する情報
急性毒性/刺激性/感作性

	値	生物	備考
LD_{50} 急性毒性 経口			確定していない。
皮膚刺激	刺激性を引き起こす可能性がある。		長期又は繰り返し接触する場合
眼への刺激性	刺激性は知られていない。		
感作性	感作性は知られていない。		

使用上の経験
乾燥している時に繰り返し皮膚や眼に接触した場合、刺激性を引き起こす可能性があります。

追加情報
利用可能な毒性情報はありません。
本製製品は directive 67/548/EEC(従来法)の判定基準を基に分類しました。

12. 環境影響情報

毒性
環境への影響

	値	試験方法	検証
魚			確定していない

残留性と分解性
生分解性 確定していない

生物濃縮性
利用可能な毒性情報はありません。

土壌中の移動性
利用可能な毒性情報はありません。

PBT と vPvB 評価の結果

利用可能な毒性情報はありません。
その他の副作用
下水処理場
本製品を地域の条例に従って処理する前に、廃水に流さないで下さい。

一般的な規制
利用可能な環境情報はありません。
本製品の漏出物が環境中に流出しないようにして下さい。

13. 廃棄上の注意
廃棄方法
製品の推奨
廃棄物は各地域の法令に従って廃棄して下さい

製品の推奨
完全に空になった包剤は再利用できる可能性があります。
中身が入っているエアロゾル缶は GGVSEB に従った換気装置のある容器にいれて収集、及び運送して下さい。
ワンウェイ容器は各地域の法令に従って廃棄して下さい。

＊GGVSEB は Gefahrgutverordnung Straße, Eisenbahn und Binnenschifffahrt の略

一般情報
EWC 規則は、同じ廃棄物でも発生源によって異なった規則が適用されることがあります。そのため、最終利用者が廃棄物を正しい分類で処理する責任があります。

14. 輸送上の注意
陸上輸送 ADR/RID
UN 1950 エアロゾル, 2.1, (D), 分類コード: 5F
少量の場合は考慮されません。
分類コード: 5F
海上輸送 IMDG
UN 1950 エアロゾル, 2.1
ラベリング: エアロゾル, UN 1950
航空輸送 ICAO/IATA-DGR
UN 1950 エアロゾル, 可燃物, 2.1
UN-4G/Y ダンボール箱が必要
使用者のための特別な注意事項
利用可能な情報はありません。

Annex II of MARPOL 73/78 and the IBC Code による大量輸送
利用可能な情報はありません。

15. 適用法令
物質または混合物のための安全、健康、環境の特別な法律/規制
VOC 標準
VOC 含有量: ca.92%

国際規制
その他の法令, 制限, 禁止規則
以下に注意して下さい: TRG 300 "エアロゾル" (ドイツ)

Water hazard class 1 Mixture-WGK VwVwSaccording to VwVwS (GER)

Preliminary

注意/干渉される法令　Annex I, No. 11

化学物質安全評価

利用可能な情報はありません

日本の法律

消防法　危険物第4類第2石油類

その他、お使いの地域における地方条例等の法規制等にも注意して下さい。

16. その他の情報

訓練方法

このSDSを参照して下さい。

推奨用途と制限

国内，国外に関する化学物質の法規制を遵守して下さい。

警告情報を尊守し指示に従って使用して下さい。

追加情報

本製品の全ての原料は TSCA に登録されています。

カタログを参照して下さい。

本SDSにある情報は、現在知りうる知識を基に、安全の観点から当該製品について述べたものです。

情報源

原料のSDS

項目3において記載された R/H-phrases の表現(製品の分類ではない)

R10	引火性である。
R12	引火性がきわめて高い。
R65	有害： 飲み込むと肺障害を引き起こすことがある。
R66	暴露の繰返しにより皮膚の乾燥あるいはひび割れを引き起こすことがある。
R67	蒸気は嗜眠状態およびめまいをおこすことがある。

記載内容の問い合わせ先

会社名	フックスジャパン株式会社
住　所	三重県伊賀市大内字三郎谷408－3
担当部門	技術部
電話番号	0595－20－1114
ファックス番号	0595－20－1056

改訂履歴

作成　2013年　9月10日（翻訳）

記載内容の取扱い

全ての資料や文献を調査したわけではないため情報漏れがあるかもしれません。また、新しい知見の発見や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定事項にご利用される場合は、出典等を良く検討されるか、試験によって確かめられることをお薦めします。なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。また注意事項等は、通常的な取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、この点にご配慮をお願いします。

また、現場責任者は取扱いについて十分に現場作業者の方へ教育を行って下さい。

本SDSは、輸入先の英文SDS（DECORDYN 350 Spray： Revision 01.08.2012 (GB) Version 2.7）を元に作成しております。

日本の消防法については記載をしていますが、その他の日本の法規制には対応しておりません。